



「ひらほく新聞」で検索!

★感謝で継続14年目へ★

<http://www.hirahoku.com/>

☆ぜひ、バックナンバーをどうぞ!

発行所 読売センター平塚北部(ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

# 本来のあなたは美しい



見えないものの及ぼす力に関して、どちらかという信じてきた自分ですが、今回、なるほどこんな捉え方があったのかと、有難い気づきをいただいた書籍をご紹介します。

幼少期から観えないものを「感じる・理由なくわかる」といった能力を持っていたという、「潜在意識の専門家」藤堂ヒロミさんの著書、『潜在意識3.0』。あなたの潜在意識のメッセージは、あなたの「臓器」が知っています。そのメッセージを聴けば、思ってもいなかった力を発揮でき、人生が大きく変わります。さあ、臓器に意識を向けて、その声を聴いてみましょう。

## 人ではない声の正体

「あ〜忙しい。忙しい。働き続けなくちゃー休む暇もない」ランチタイムの行きつけのカフェ。ふいに私の耳に飛びこんできたのは、「人の声」ではない叫び。目を向けると、男性が大きな声で、向かいに座る女性になにか仕事の指示。一方、女性は「黙って、うなずき加減で、サンドイッチをほおぼっている。」

そう。冒頭のセリフは、彼女の「口」からの声ではなく、「胃」という「臓器」から発せられているもの。次から次へと、味わうこともなく、機械的に食べ物を通してこまれた彼女の「胃」が「休む暇もない」とぼやいていたのだ。「あ〜もうー!こんな仕事やめてやる!でも…やめたいけど

## 臓器の声を聴く

臓器からの叫びとは、潜在意識からのメッセージ。この臓器から発せられるメッセージを受け取り、対話していくことで、潜在意識はアップデートされる。

そして、あなたの本音とズレが生じている思い込みが微調整される。すると、もやっとしていた生きづらさが解消され、自分らしさを取り戻すことができる。また、制限が外れることで、新たな能力を発揮したり、自身の望む幸せや豊かさ、成功を手に入れたりすることができるようになる。

これまでは、脳の機能にクローズアップする方法(潜在意識1.0)、体の反応からアプローチする方法(潜在意識2.0)が主流だった。しかし近年、科学の進歩と共に、骨や脂肪細胞からも脳にメッセージが送られていることや、臓器同士が会話をしていることなど、新たな人体の神秘が解明かされつつある。

本書では、その「臓器から潜在意識にアプローチする方法」を「潜在意識3.0」と定義した。常にいろんな臓器がメッセージを発しており、放置すると、人間関係や仕事、お金、自身の人生のあらゆる領域にその影響が及ぶ。

## ポジティブ思考が潜在意識を閉ざす

いままで多くの自己啓発法が唱えてきた「変える」というやり方が、皮肉にも「変れない人」を増やし続けてきた。無理なポジティブ思考は、使えば使うほど「いまの自分ではダメだから変えなきゃ」と、自分を否定する。そして、「自分はダメだ」という意識を潜在意識下でさらに強めてしまう。

これでは、逆効果となり、生きづらさの解消どころか、自分らしさや本音からかけ離れた生き方になり、あなたの人生が迷走を始めてしまう。

すべての細胞、臓器に潜在意識がある

実は私たちのすべての細胞、すべての臓器には「潜在意識」がある。この潜在意識とは、あなたが「無意識に信じていること」と、であり「確信していること」。私は、これを「思い込み」と呼んでいる。たとえば、「女性(男性)はこうしなければいけない」「結婚とはこういうもの」「働くにはこうしなければならぬ」「家族はこうあるべき」「こんなふうには恋愛しなければ…」。

このように、育った家庭や学校、社会という枠組みの中でさまざまなことを感じ、繰り返し思うことで「確信」が生まれ、これがいつの間にか「マイルール」となって「思い込み」となる。

この思い込みこそが潜在意識で、あなたの人生を決めている。多くの人が「思い込み」を続けて育った先の段階で「問題」や「生きづらさ」を感じている。

その本音と思い込みのズレを素早くキャッチするのが「臓器」。本音とかけ離れた思い込み、何となく違和感を覚えながらも、やり過ごしていた思い込み。それを臓器がキャッチして表してくる痛みなど、身体の内側に意識を向けて、そこに耳を傾け、気づいてあげることで、思い込みはアップデートする。大きく変えるものではなくわずかな微調整だが、身体は全体で働いているので、アップデートすることで、身体の内側全体の周波数(振動数)が自動チューニングされる。

臓器には、意識があり、記憶力がある

後悔は肺、罪悪感、肺や皮膚、子宮が受け止める。さらに、骨や筋肉、皮膚はどれだけ時が流れてもケガや事故のショックは覚えていく。逆に、愛されている喜びや、ハート同士が触れ合う感動、相手を思いやる気持ち、溢れ出す感謝は、心臓から血流に乗って行き渡り、身体中に拡散される。このように、臓器は、確信した思い込みを記憶しており、その保存データと、あなたの本音とズレがあるものや、ちよとした違和感を素早くつかむ。臓器は、あなたのことを完全に知り尽くしている。そして、あなたにどんなに嫌われても、悪態をつかれても、あなたを見放すことはない。(以上、前半部分から紹介)

書籍には、各臓器ごとのセルフケアとダウンロード・メッセージを詳細掲載。ただ読み進めるだけで、普段外側ばかり向いていた意識の矢印が、内側の「自身自身の臓器」に向く。臓器に意識が定まることで潜在意識をアップデートするための力が起動する。

そこでまずあなたがすることは、休みなく働いてくれている臓器に、「ありがとう」と愛と感謝の意識を向けてあげること。臓器は、小躍りするほど喜びます。

# 虹の岬の喫茶店

森沢 明夫 著

小さな岬の先端にある喫茶店。そこには美味しいコーヒーと、お客さんの人生に寄り添う音楽を選曲してくれるおばあさん(悦子)がいた。彼女は一人で店を切り盛りしながら、時折海を眺め何かを待ち続けている。その店に引き寄せられるように集まる、心に傷を抱えた人々―彼らの人生は、その店との出逢いで、変化し始める。疲れた心に寄り添う、癒し小説。

喫茶店を訪れる人たちの人生が描かれた、心温まる6つの物語だが、絶妙につながる秀逸な連作短編集。会話もおだやかで魅力的な主人公・悦子さんにおおのが、心深く響く言葉をかけてもらい、その人柄に癒されていく来訪者たち。

吉永小百合さんが、原作を読んでこの作品ならと、企画から参加、映画化され、「ふしぎな岬の物語」(悦子さんを演じている。映画を含め、コロナ禍を悩ま過ごした多くの皆さんへ、ぜひオススメの作品だ。



## 耳で読むビジネス書

クラブハウス  
Clubhouse で、ビジネス書や実用本を朗読し、その著者さんに深掘りインタビューするという、プロのナレーター・下間都代子さんが運営する、平日朝8時から「耳ビジ★耳で読むビジネス書」という継続3年目突入の人気番組がある。

以前、おせっかい協会・高橋恵さんが新刊書籍と共に登場された時以来、有難く聴いているが、先月号で書籍を紹介した、香取貴信さんが登場した回でも、とても感動的なお話があったので有難くご紹介する。



★耳ビジ→

## 「聴す」

聴くという字の聴に送り仮名「ず」をつけて「聴す」という言葉。さて、何と読むのか。下間都代子さんが知って驚き、以来広くお伝えしているという。

これで「ゆるす」と読む。相手の話を真摯に聴くことを傾聴というが、聴くという行為は、まさに相手の存在自体を受け入れる、どんなことでも受け止める、受容すること。だから「ゆるす」なのだ。

取さんが、それを受けて話された、以前聴いたという、あるおじいちゃんのお話。また実に素晴らしかった。

ある村に長老のおじいちゃんがあった。そして、村人は何か相談があると、みんなそのおじいちゃんの方にいった。そうするとおじいちゃん「はあ、うんうん」って、いつも話を聴きながらうなづいていた。

失恋話をした人には、横に寄り添って背中をさすって、「うんうん」って聴いてくれた。そして、誰かにだまされたという相談には、涙を流しながら、手を握って「うんうん」って聴いてくれた。話を聴いても

そんなおじいちゃんの噂が広まって、いろんな村から、たくさんの方が話をしに来てくれた。その後、おじいちゃん亡くなった時のこと。すぐにその知らせが広まって、その後催されたお葬式では、弔問客がたくさん集まり、長蛇の列となった。

その多くの方々の前で、最期、お孫さんが読んだ弔辞に、みな愕然とした。：。「生前は、おじいちゃんのところによく来た方に来ていただき、いろいろ良くしていただいて本当にありがとうございました。うちのおじいちゃん、生まれ

つき耳が聞こえないので、皆さんにはたくさん迷惑をおかけしたと思います。それなのに、今日こんなにたくさんの方にきていただき、きつとおじいちゃんも喜んでいきます。」「えっ！まさか聞こえてなかったの！」「ウソでしょ！」：、みんなそこで本当に驚いた。おじいちゃん、そういえばしゃべったことなかった。いつもニコニコしてうなづいて、相手に寄り添ってくれていたけど、聞こえてなかったんだ！

これこそ、まさに「聴す」ということ。みんなおじいちゃんに、ゆるされていたんだ。：。という深いお話。本当に感動あふれる泣ける話だった。普段使う「許す」という言葉は、どうしても上から目線に感じてしまう。しかしこの傾聴の意味の「聴す」は、ただただ寄り添うという心の広さ、懐の深さを感じられる、とても素晴らしい癒やしの言葉。ぜひ、多くの人に知ってもらいたいお話だ。

そういうえば、斉藤一人さんの8つの「天国言葉」、愛しています／ついでに／うれしい／楽しい／感謝してます／しあわせ／ありがとうございます／ゆるします／では、最後に「ゆるします」。自分をゆるせないと他人もゆるせない。胸に刻もう。

## 感謝のタマゴボーロ

皆さんよくご存知のタマゴボーロ、実はある会社が市場占有率70%以上、驚異的な数字を維持しているらしい。もちろん有精卵等、素材にこだわっていて、他社と比べて美味しいのはもちろんだが、この会社では、他社と違う、ある独創的な作り方をしているそう。

何と、作る人がみんな「ありがとう」と声に出して言いながら作っているという。それもニコニコして、一日何千回も言うのだそう。このニコニコして、というのが肝。例えば怒った時に吐き出す息を袋に入れて中に蚊を入れると、その蚊は数分で死んでしまうらしい。逆にニコニコしていると、息では長生きするという。おにぎりでも実験できる。怒った時に握ったおにぎりとニコニコして握ったおにぎりでは見た目一緒でも、子どもはかなりの確率でニコニコにぎりを選ぶ。

素材にこだわるとの先に、作っている人のニコニコ度にもこだわるとの波動がモノに移るから、というのがこの会社の社長である竹田和さんの考えだ。でも、作っている人の気持ちがいともニコニコって、難しくないだろうか？

竹田さん曰く、「ありがとう」と声に出していると自然にニコニコしてくるといふ。し、何より運が良くなってくるという。

「1日3000回ありがとう」と言ってみなさい。人生変わるから」と。40分で、約3000回言えるそう。

何と竹田さんの会社の社員は1時間「ありがとう」と言つと、給料とは別に金が支給される。1時間で800円。だから毎日「ありがとう」と2時間言う社員は1カ月で4万8000円プラスにも見えるそう。

究極のタマゴボーロを作るためには欠かせない経費として考えているのだらう。これが爆発的に効をそうした。ありがとうと声に出して言っていると、みんなの顔が変わってきてニコニコ顔になったのだという。

しかも工場には「ありがとう。ありがとう」と録音されたテープが24時間流れている。だから出荷するまでにだいたい100万回の「ありがとう」がお菓子に入っているそうです。

見えない成分、100万回のありがとう含有。このたくさん感謝の言葉が毎に驚異的な実績となって、会社の業績に現れているのも、また事実だ。

(出典：「致知」致知出版社 竹田和子・渡部昇一対談)

## 編集後記

和田裕美さん、書籍との出愛は2005年。以来、その教えにどっぷりハマリ「陽転思考」(信者)笑の自分。3月17日夜、以前書籍紹介した和田さん原作小説「タカフモノ」の舞台劇(和田さん自身もずっと舞台上で朗読)を、高橋恵さんと、女性起業家育成アカデミーや夢を叶える話し方協会等の代表・山本光子さん(光子さんは恵さんの新刊本を塾生さん用に100冊購入！)と一緒に有難く鑑賞。たっぷり笑って泣いて、満席でのライブはホント最幸！ご自身の思いがストリートに響いたラストでは、実話を知っていてやはり涙が。和田さんの朗読も本気が凄かった！『人生って、本当は当たり前ではない毎日がタカラモノ☆』だとあらためて感動しきり。

終演後の語り合い。光子さんが、香取さん、のぶみさんの教えを実行している話が凄かった！毎朝ご飯をお供えし、ご先祖様を名前前で呼んで、お参りしていたら、最近、もの凄くラッキーな出来事が立て続けに起きたという。目に見えない想いのパワー恐るべし。

同日、恵さん宅で超和田裕美ファンとの奇跡的な出愛も。パワースポットでの必然の引き寄せに大感謝。

和田和子・渡部昇一対談)